

# 井の国歴史懇話会報

No.22

発行:井の国歴史懇話会事務局

発行日:令和2年3月30日



## 演題

### 「竜宮小僧と井伊直虎」

講師：鈴木一記氏

令和2年2月19日(水)



講師 鈴木一記氏 会長 龍潭寺閑栖  
武藤全裕師

当日は、客殿前の枝垂れ梅が小春日和に映え、穏やかな日でした。今回の研修には、久留女木竜宮小僧の会 鈴木一記氏を講師にお招きし、

- ①直虎が残したレガシー
- ②竜宮小僧が伝えたかったこと
- ③萬歳楽と集落の成り立ち

の3つをテーマとした講話でした。心に残った一部をまとめ報告したい。

#### ①直虎が残したレガシー

講師の鈴木さんは、冒頭に「大河ドラマが終わったとたん潮が引くように、ブームがサーと引いてしまい、過去の出来事になってしまった。しかし、直虎ゆかりの地であることは変わらない。また井伊家発祥の地であることも変わらない。なのに「ゆかりの地」の旗まで降ろしてしまったのは、もったいない。だから、久留女木から古くなった幟旗を新しくし、直虎のレガシー（遺産の意）を守っていきたい。」と、熱く語られた。

そして、みなさんに、「大河ドラマ「おんな城主・直虎」の中心テーマは、何だったと思いますか。」と問いかけられ本題に入った。

始めに、直虎の生きた時代背景、「大国に挟まれた弱小国が、いかに生き延びていくか。」戦国時代の井伊

氏に起きた数々の不幸な出来事を背負い、いつ攻め滅ぼされてもおかしくない中で、度重なるピンチをどう切り抜けていくか。

直虎は、武力ではなく、知恵や勇気、そして粘り強い交渉力で切り抜けてきた。相手がどうしても武力で攻め込んできたとき、村人と共に隠し里に逃げ込んだ。

講師の鈴木さんは、ここがポイントであったと述べられた。また、決して戦わないというのが直虎の戦略だったとも言われた。講話後地域の歴史家のみなさんからもうなずく声が聞こえてきた。隠し里に逃れて、大切な人を守り、命を守り、力を温存し、過ぎゆくのを待つ。弱い者にとっては逃げ隠れすることも戦略だとドラマを通して教えている。これがドラマの根底ととらえた。

また「学校や社会で、イジメに合いピンチのときでも命を粗末にはしてはいけない。逃げてもいいし隠れてもいい。とにかく命を大事にして。」と、私たちにメッセージを投げ掛けられもした。

直虎の大河ドラマ根底のテーマを知るとドラマには、大変深いメッセージが流れていることを学んだ。

さらに井伊氏がピンチに陥ったとき、命を守る場所、困難を乗り越えようとした場所。安心でき食のある場所。それが隠し里久留女木の棚田であったのである。

大河ドラマ「おんな城主 直虎」の棚田は、里の者に守られ、長い時を経て、現在も美味しいお米が収穫されている。棚田に込められた真の想いを受け継ぐ皆さんが現在も活躍されていること。それがまさに「直虎が残したレガシー」だと、感銘した。

#### ②竜宮小僧が伝えたかったこと

昔むかし都田川の上流に、大淵という深い淵があり、淵の底は竜宮に通じている。村人の多忙な折りには、大淵から小僧が出てきて、村人の手伝いをしてくれた。この不思議な小僧を村人は「竜宮小僧」と呼んで、たいそう可愛がっていたそう。

穏やかな暮らしが続いたある日、小僧は村人のお礼の蓼汁たでじるをご馳走になり死んでしまった。その後、竜宮小僧の亡骸を埋めた木の根元から、こんこんときれいな水が湧き出し、その水を利用し村人は多くの田んぼを開墾した。そこは、今「久留女木の棚田」といわれており、「直虎のレガシー」そのものの場所である。

竜宮小僧は、自ら名乗る事も無く、困っている人がいればいつも助け、見返りを求めることも無く、死んでもなお棚田の水源となり、今も村に恩恵を与えている。

村人は感謝の気持ちを込めて、田植えや稲刈りの後に、現在もお供え物をして手を合わせている。ここに竜宮小僧伝説の神髄がみられる。また、竜宮小僧の死んだ「蓼汁」を通して「川魚の乱獲、自然から頂く物は、食べる分だけにする。」等の教え。竜宮小僧の伝説を通して、現在の私たちに大切な問い掛けをし、今一度、各人が心に問う必要を学んだ。

### ③萬歳楽と集落の成り立ち

「ひよんどり」「おくない」は、地域の誇る国宝級の無形民俗文化遺産。ご覧になったことの無い方は、ぜひ、観にお出かけ下さい。

「ひよんどり」「おくない」を始めとするこれらの祭りは、民俗学的には、「田遊び・田楽」という種類に分類され、神様の前で「今年もどうか豊作にして下さい。」と予め豊作を約束してもらう事を目的とした神事なので、「予祝神事」といわれるとのこと。

引佐町周辺の奥浜名湖エリアは、歴史と共に民俗文化の宝庫であることも紹介された。

井伊氏との関わりは、地域の民衆との強い結びつきの中で集落として成り立ち、今日までの長い歴史がここに存在する由縁と感じた。また、常に村人との中心には井伊氏の存在があった。武藤全裕師執筆の「遠江井伊氏物語」には、祭りを行うお堂やご本尊などを建立したり、寄進したりしたという記述が多くみられると説明された。鈴木氏は、「井伊家が滅びずに今日在るのは、集落の村人との親密な関係性を繋いできた証。」と考えられる。と結ばれた。

### ～円座になって～

講話が終わった後、円座になり質疑の場をもった。「隠し里」について熱心な質問がされた。決して戦わないことが直虎の戦略。知恵や勇氣、そして粘り強い交渉で切り抜けて来た直虎。「隠し里」は、直虎にとって「命を守る場所」であったと鈴木氏は述べられた。

この事は、現在社会にも通じると、外国の事例、イジメの事例を挙げ話された。

円座になった質疑は、至近距離になり、親しみある質疑の場となった。



円座になっての質疑

講師の 鈴木一記氏には、お忙しい中、奥深いお話を有り難うございました。参加者一人ひとりが「直虎・竜宮小僧」を通して、自分の心に問い掛けることが出来たことと感謝いたします。有り難うございました。

## 令和2年度の予定

### ★ 4月16日(木)

総会 龍潭寺客殿 13:30～  
総会後 「御霊屋公開見学会」  
講師 龍潭寺住職 武藤 宗甫師

### ★ 6月24日(水)

龍潭寺住職と巡る旅  
現地研修  
「今川氏と吉良・東条城・西尾城」

### ★10月 5日(月)

講話 龍潭寺客殿 13:30～  
演題 「三方原開拓に賭けた  
サムライの夢」  
～気賀林に支えられて～  
講師 井の国歴史懇話会  
柴田 宏祐氏

### ★令和 3年 2月 19日(金)

講話 龍潭寺客殿 13:30～  
講話・講師 未定

### ★ 会報 ★ No.23～No.25 発行予定

## ★information

### ●総会 期日：4月16日(木)

会場：龍潭寺客殿 13:30～  
総会後：「御霊屋公開見学会」  
平成30年5月19日に入札、スタートした御霊屋が完成しました。見学会をもち、井伊氏について勉強会を実施します。

年会費 ￥1,000をお願いします。

ゆうちょ銀行 12380  
口座番号 43576861

ご自分のゆうちょ銀行の通帳から振り込みができますが、送料100円が必要になりました。

